

多発する高齢者の

死亡事故と対策

九月十七日現在、区内で発生した交通事故による死亡者は十一人で、昨年（八人）をすでに上回り、非常事態に直面しています。また、犠牲者のうち五人（昨年は四人）が六十五歳以上の高齢者です。

増加する高齢者の交通事故防止のため、区交通安全運動推進委員会では、「高齢者交通事故防止対策専門部会」の設置やシルバリーリーダー研修会、地域の各老人クラブと協力しての交通安全教室などを開催し、交通弱者である高齢者の交通安全知識の普及に努めています。

また、区では現在の緊急事態を踏まえ、九月から敬老手帳を交付する際、交通安全のパンフレットを配布するなど、死亡事故防止を呼び掛けています。

警報発令中

高齢者死亡事故の特徴

事故の多くは、周辺に横断歩道や信号機付き交差点があるにもかかわらず、別の場所を横断することにより発生しています。



渡る道路は鬼ばかり  
【注意しましょう!】

高齢者の交通事故死亡者数  
(平成14年9月17日現在)



8月6日、老人クラブ「西創成喜楽会」での交通安全教室



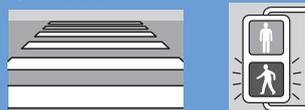
8月30日、「シルバリーリーダー研修会」

交通安全ポイント  
【守りましょう!】



①どこでも渡らない

～近くに信号や横断歩道がないか探しましょう!



②見えない所で渡らない

～近くに信号がないときは左右がよく見える場所で横断しましょう!



左右の確認!

③横断中も周囲に目配り

～交差点では右左折してくる車に注意しましょう!



車に注意!

④遠くにいっても車は速い

～近づいてくる車があるときは通り過ぎるまで待ちましょう!



止まれ!

「事故防止は健康づくりから」

シルバリーリーダーからのメッセージ



高齢者向けパンフレット

現役時代は、銀行で運転業務に三十年従事し、この間、無事故無違反で表彰され、交通安全には人一倍関心のある武田慶三郎さん（七十八歳）。二年前から、老人クラブ「苗穂洋々会」のシルバリーリーダーを務めるなど、地域で高齢者の啓発活動を行っています。また、昨年十二月から毎月地域で発行している「洋々会通信」に、交通事故とその防止対策について毎回投稿しています。

「交通事故は自ら防止するもの。そのためには、健康が第一」と語る武田さん。高齢者は、視力や体力が衰え、緊急時の行動が思うようにできません。いざという時に備え、自

分自身の健康管理や体力づくりには十分気を付けることが必要です。

「思いやりの気持ちを持って」

交差点の青信号で横断中、右折してくる車に慌てて転んだり、また運転中、急な割り込みに困惑したりすることもあります。こんな小さなことでも高齢者にとっては、事故の元になることもあります。「自分本位ではなく、相手に対する思いやりの気持ちを持って、安全な交通環境づくりを目指していきたい」と熱い思いを語ってくれました。



毎日、ゲートボールで体力づくりをしている武田慶三郎さん